

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「聞く力」を高めよう

学習面や生活面に困難さを抱える子どもたちは、ちょっとした雑音で注意が逸れやすい、相手の話を最後まで集中して聞いてもらえない、聞き間違いや聞き漏らしがある、個別に言われると聞き取れるが集団場面では難しい、聞いたことをすぐ忘れるなど、学習の基礎となる「聞く力」に課題があります。

1 聞く力とは ——

- ・音が聞こえている。(聴力)
- ・音の違いが分かる。(音の弁別)
- ・多くの音から必要な音を聞き取る。(音の選別 注意の集中と持続)
- ・言葉の意味が分かる。(言語理解 知識 経験)
- ・話を聞きながら(聴覚記憶)、要点を理解して表現できる。(言語思考力・表現・推理)



2 聞く力を高める「7つのポイント」 ——

- (1) 静かな環境をつくる(静けさは最大の支援!)
→教室全体を聞きやすい環境にする。(教室内外の音・声や黒板付近の視覚刺激を減らす)
- (2) 子どもを引き付ける手立てを工夫する(やる気スイッチをONにする)
→具体物を提示する、アイコンタクトで聞く構えをつくる、活動に見通しがもてるように最初に活動の流れやめあてを示す、授業を短いユニット(10分～15分)に分ける。
- (3) ゆっくり、はっきり、短く、順序よく話す(必要な子どもには個別の指示を出す)
→子どもが分かる言葉で、繰り返しを多くする。
→相手の話を聞きながら聞くことを習慣付ける。
- (4) 複数の指示はしない(一時一事の原則)
→複数の指示を聞き取ることが苦手なので、1回に1つの指示を出す。
→同時に複数の活動をすることが苦手なので、聞くときは他の活動をストップする。
- (5) 視覚的情報を提示する(実物・イラスト・写真・文字・ジェスチャー等)
→聴覚記憶(把持)力をカバーするためには、聴覚刺激よりも視覚刺激のほうが永続性があり、注意を向けやすい。(視覚支援は聞く力や聴覚的短期記憶をカバーする)
- (6) 楽しく聞く力を身に付ける(学級全体でソーシャルスキルトレーニングを行う)
→しりとり、なぞなぞ、カルタ取り、フルーツバスケット、連想ゲーム等を行ったり、子ども実態に合わせた読み聞かせを取り入れたりする。
- (7) 伝言やお手伝いをお願いする(指示を理解しているかその場で確認する)
→職員室や保健室等にお使いをお願いして、少しずつレベルを上げていく。



～(?)に言葉を入れよう～

Q1: 人は(?)の数だけ幸せになれる。「西洋の古いことわざ」

ヒント①: 今まで何度もやっている。

ヒント②: 一人ではできない。

ヒント③: 仲間が集まったときや小さな祝い事で行う。

ヒント④: 漢字二文字。

ヒント⑤: 他人同士を「仲間」にしてしまう不思議な力がある。

A: ○○

Q2: 子どもは(?)の数だけ幸せになれる。「加賀谷のつぶやき」

A: 正解はありません。どうしても気になって眠れない人は連絡をください。